

通り慣れたいつもの道を抜けて、古い社へと続く細道に入る。

緑濃い木々の隙間からこぼれる日差しを頭上を感じながら、
苔に湿った石畳の先に続く静かな世界にゆっくりと歩みを進めてゆく。

そこだけ時間が止まったような完璧な静寂のなかで私たちは、
木々を揺らす風の気配や町のにぎわい、祭りの旋律、
遙か昔、魂に刻み込んだ心の原風景の塩川を思い出す。

Classic Shiokawa.

クラシック塩

その風貌をたず